

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	2019年10月9日	評価結果市町村受理日	2019年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti%on%kouhou%detail%022%kani%true&amp;ij%gyosyoQd%2192200034-008&amp;servi%ceQd%320&amp;Type=search">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti%on%kouhou%detail%022%kani%true&amp;ij%gyosyoQd%2192200034-008&amp;servi%ceQd%320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がその人らしく暮らし続ける支援に向けてお一人お一人の思いや要望は何かと職員が把握することに努め、それぞれの利用者様のできる力を支え維持できるよう日々の暮らしの中で楽しみや、意欲を見出してもらえよう支援をしています。ご家族様や地域の方にもご協力を頂きながら、地域で暮らす意義を大切に、関わりが途絶えないように連携を取り、またご意見やご要望なども話しやすい雰囲気作りに努め、ご意見等には真摯に受け止め次に繋げるよう取り組んでいます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族や利用者が希望するかかりつけ医には家族が同行している。場合により職員が同行したり、医療機関まで職員が送迎したり安心して医療が受けられるように支援している。入居時に終末期の意向を確認し、状態の変化に伴って再確認している。終末期には、看護師より具体的なケアの方法や家族への対応など職員に指導している。職員は、家族と利用者が最期を共に過ごせるように心配りをしている。地域のハザードマップを参考に水害時の避難経路を複数検討し設定した。管理者は、意見や要望があれば言って欲しいと職員に伝えている。ミキサーや食品ケースの購入、リビングや玄関の飾りつけ、レクリエーションなど職員の意見を反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者全員の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議の中で、施設理念と職員の心得の唱和を行っている その理念の下チーム目標を立てユニット内で毎日唱和し、日常のケアに繋げている	管理者は、会議や気が付いた時に利用者のペースを大切に支援することを説明している。職員は、利用者の状態を把握して、声掛けを大切に、力を引き出せるようなケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉推進委員のメンバーに加入し、地域の方と意見交換をしたり勉強会を行っている 地元の小学校の運動会にも参観させていただいた	保育園児やボランティアの訪問、中学生の職場体験を受け入れ、利用者や交流している。地域の方より野菜や毛布、シーツなどをいただいている。しかし、事業所の役割や活動内容など地域へ情報の発信を行っていない。	地域密着型の施設として地域とのつながりは大切である。今まで以上に地域の協力が得られるように積極的な情報の発信を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして小学生を対象に、養成講座を実施したり、認知症初期集中チームのメンバーとして、専門知識を活かした活動をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告や職員の異動、アクシデント報告を行い出席者のご意見をいただき、サービス向上に活かしている	地域の代表者より、地域の防災訓練を紹介され参加したり、車椅子でも外出できる場所を聞いて出かけたりしている。外部評価の結果を報告し、目標達成計画についてアドバイスを受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、困難事例の相談や、地域包括センターからの相談を受け協力関係が築けている	市の認知症初期支援チームや認知症推進メンバーに参加し意見を交換している。困難事例を相談したり、緊急入居の依頼を受けたりしている。市の職員から講師の依頼や議事録を持って来た時に情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせず、身体拘束をしないケアを意識して平日より取り組んでいる	拘束や虐待について定期的に勉強会を行っている。管理者は、声の掛け方が気になった時は、利用者の行動の理由を考え対応するように説明している。職員は、虐待や言葉使いチェックリストで振り返り拘束しないように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者も職員も施設内外の研修に参加し、虐待の防止に努めている		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間予定してある勉強会にて、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、利用者・ご家族様の背景を踏まえた上での、十分な説明を行うよう心掛けご理解を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には相談窓口についての説明とポスターの掲示、日頃より意見の言いやすい関係作りに努めている	家族の来所時や電話で利用者の状況を伝え、意見や要望を聞いている。年1回家族アンケートにて要望を把握することもある。利用者からパンを食べたいと要望があり提供するなど、要望に応えるように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とのコミュニケーションを図り、全体会議や個人面談等で意見を言いやすい環境作りに努めている	管理者は、常日頃から意見や要望があれば言って欲しいと職員に伝えている。会議や個人面談で意見を聞いている。ミキサーや食品ケースの購入、リビングや玄関の飾り付けなど職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々に合わせたシフト調整や労働条件に応じた諸手当の制度等、意欲的に働ける職場環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定に施設内外の研修を立て実施している日常の業務の中でケアチェックを行ったり、個人面談等で各自の力量を確認している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接している事業所と合同で勉強会を行ったり、ケアサービス連絡会に参加し、交流や学ぶ機会を作っている		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に必ずご本人面談を行い、思いの把握に努め、入所後少しでも安心して生活していただくための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ずご家族とも面談を行い、不安なことご要望等をじっくり聞く時間を作り、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症状の症状によっては、まずは正しい診断をしていただく為に専門医への受診を勧めたり、在宅ケアでのサービス利用についてもお話をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者に対し、感謝の気持ちや敬意を払えるよう「ありがとう」を言葉にして伝えることを意識している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所したからといってご家族との絆が絶えないよう、来苑していただきやすい雰囲気づくりやご利用者の思いを代弁して伝えたりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時より、馴染の人や場所の把握に努め、ご家族の協力もいただきながら、関係が途切れないよう支援に努めている	職員と一緒に馴染みの店や初詣に出掛けている。家族に協力をお願いして自宅に帰る方もある。利用者の希望で、以前から利用していたNPO法人に依頼して食事に出かける方もある。知人の訪問時には、再訪問をお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者同士の関係性を見極めながら、孤立させないよう関わりが持てる場面作りに努めている		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した際、特に長期入院による退所の場合は、その後の経過を知ると共に、ご家族の相談にも柔軟に対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でお一人おひとりの思いや意向の把握に努め、職員間で情報共有を図るよう努めている	入浴時や居室などで一対一になったときに思いや意向を聞いている。困難な方には声を掛けて表情や態度から思いを把握している。利用者の思いを記録に残して情報を共有できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からこれまでの暮らしについてお聞きしそのことと現状を結びながら、その方をとらえていくことに反映している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の「できること・できないことシート」を用いて客観的にアセスメントすると共に日頃の状態を観察し情報共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、全員のモニタリングを実施しケア内容を振り返っている。また課題があった時はその都度、意見交換したりご家族に相談し、計画書にも反映させている	毎月担当職員がモニタリングを行い、職員間で話し合っアイデアを反映している。医師や家族の意向を取り入れて現状に即した計画を作成している。来所されない家族には意向を確認することが出来ていない。	家族の意向を踏まえて職員間で話し合いが出来るような工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は計画書に基づいたケア提供を実践し職員間で情報共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人・ご家族の状況や施設側の状況に応じて柔軟に対応するよう心がけ実践している		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が地域との関係づくりをすることで、ご利用者が安全で楽しめる暮らしを提供できる機会を作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や身体状況の変化時は本人・ご家族の意向を確認し、安心して適切な医療が受けられるよう支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医は家族が同行している。家族が同行する場合は状態を書いたメモを渡し、結果を確認している。場合によっては職員が同行したり、医療機関まで送迎したりしている。職員が同行した場合は家族に結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はご利用者の体調について把握し、気づきを看護職に伝えて、早期に医療的対応が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より医療機関との良好な関係性を築き、情報交換や相談しやすい状況下で円滑な、入・退院に繋がるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、終末期に向けたケア方針を説明すると共にご本人・ご家族の意向を確認した上で、かかりつけ医とも密に連携しながらチームで支援できる体制をつくっている	入居時に事業所の方針を説明している。状態の変化の応じて再度確認し、意向を共有している。終末期には、医師・看護師より家族に説明している。職員には看護師より具体的なケアの方法や家族への対応など指導している。家族と共に最後を過ごせるように心配りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や救命講習会の実施をし、実践力を身に付けられるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、水害時の訓練をそれぞれ年2回、いろんな想定の下実施している 地域との協力体制を築けるよう機会あるたびにお話している	夜間想定を含め年2回避難訓練を行っている。運営推進会議前に訓練を行い地域の協力が得られるように工夫している。ハザードマップを参考にして水害時の避難経路を複数検討し設定している。	

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬いの心を持って接するよう心掛けている 排泄時の声かけ等恥辱心に配慮して行っている	管理者は、利用者にとって不快な声掛けや態度とならないように職員に伝えている。職員は、排泄時や入浴時に羞恥心に配慮した対応を心掛けている。利用者の言葉を大切にし、思いに沿えるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者へ対応する中で会話を大切にし、ご本人の想いや希望を出しやすい雰囲気作りに努めている 表出が困難な方はこれまでの生活習慣などを参考にして対応するよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の気分や体調に合わせ、行事などへ参加していただいている できるだけ個々のペースに添って日々の暮らしが送れるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時等、衣服をご自身で選べる方には職員がついて一緒に選び、意思表示の困難な方はご家族が用意した衣服を着用していただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助を行う際には、その方のペースに合わせ、メニューの説明をしながら行っている ご利用者と同じテーブルで食事を摂り和やかな雰囲気ですごしている 土筆の袴取りやインゲンのすじ取り等の下ごしらえを手伝っていただいている	献立は、利用者の希望や食材を見てユニット毎に立てている。利用者の一番の楽しみは食事であると考え、盛り付けに気を付けて、利用者のペースに合わせた支援を心掛けている。利用者は、下膳やおやつ作りなど出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量を出し職員間で共有している 日中摂れていない方には夜間の水分の提供を行い、水分量の確保に努め、食事形態や調理方法、食器の工夫をすることで、できるだけご自身で食べて頂けるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後から就床前まで必要に応じて口腔ケアを実施している 歯ブラシ、スポンジブラシ、洗口液等、個々の状態に応じた物を使用し、口腔内に残渣物が無いよう努めている		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録により排泄パターンを把握し、その方のリズムに合わせてトイレ誘導、介助を行っている。トイレの認識が困難な方には、プレートを設置し、声かけや、誘導にてトイレでの排泄を支援している。失敗時は尊厳に充分に配慮した対応を心掛けている	一人ひとりのパターンに合わせて、昼夜ともトイレに誘導している。パンツの上げ下ろしなど出来るところは見守っている。失敗した時は改善できるように職員間で話し合っている。利用者に合ったパンツやパットなどを選び自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や牛乳等の提供、水分摂取量の確認、腹部マッサージの実施、リハビリ体操参加への促し等、便秘予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	待たせすぎ感がないよう入浴直前に声掛けをしたり、入浴拒否時は無理強いをしないなど、タイミングや希望を考慮し対応している。入浴時はゆったりと過ごせるよう、安全に配慮した支援を心掛けている	曜日は決まっているが、その都度利用者に確認して入浴している。嫌がる場合は、無理強いせずに時間や曜日を変更している。湯温や順番は利用者の希望に合わせて、気持ち良く入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の意に添いながら、日中の活動と休息に配慮している。夜間は睡眠状態に合わせ、適時排泄介助や体位交換等を行い安眠ができるよう努め、又1日を通して、室温・採光等にも配慮し適した環境作りを心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を介護記録のファイルにとじ、職員が常時閲覧できる状態にしている。内容に変更があれば、申し送り等で周知を図り理解を促している。服薬支援は職員2名とご利用者とで確認をし誤薬防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルや計算問題等ご利用者が得意なことや、カーテン閉め、新聞折りなどの作業等により、できる喜びや役割意識を持てるよう心掛け、時にはご利用者同士の会話の仲立ちをするなど日々の暮らしの中で楽しみが見出せるよう取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力の下、外食やご自宅近辺への外出などしていただいている。施設では季節のお花見やドライブなどで外出したり、苑庭でお茶会をしたりと、外気に触れる機会を持ち気分転換を図っている	家族の協力で喫茶店や花見、福祉施設の夏祭りに出かけている。桜や紫陽花、紅葉、蓮の花など季節毎に出かけている。車椅子の方も一緒に散歩や喫茶店に出かけている。野菜や花の水やり、ゴミ出し、洗濯物の取り入れなど利用者と一緒にやり、戸外に出る機会を作っている。	



グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いの中で、ご本人の思いを尊重し、対応している また他利用者様とのトラブルが生じないように配慮に努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望により、代弁してご家族に用件をお伝えしたり、状況に応じた支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内に外出やレクリエーションの写真を展示し楽しい思い出作りをしている 浴室・トイレの入り口には場所名のプレートを設置している 季節の花を飾ったり、相撲等好みのテレビ番組を見たりと居心地良く過ごせる環境づくりに努めている	玄関やリビングには、季節に応じた手作りの作品や花が飾られている。職員は換気や室温に気を付け、カーテンの開閉をこまめにし、彩光・遮光に配慮している。廊下の隅にソファがあり、日向ぼっこしながら一人でゆっくり過ごせるように場所もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや和室コーナーで気の合うご利用者同士で会話をされたり、ソファで寛いだりできるようにしている 廊下の一角にソファを置き日光浴や一人での時間を過ごしていただけるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しつつご利用者が使い易い空間づくりと、家族の写真や馴染の物を置くことで安心して過ごせるよう状態に応じた工夫を行っている	テレビや毛布、椅子など使い慣れた物を持ち込んでいる。家族の写真や作品、誕生日の色紙を飾っている。簡易たたみに座り新聞を読んだり、カラオケで好きな時に歌ったりしている。職員は安心して過ごせるように自宅と同じ様に家具を配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室にはご利用者のネームプレートを貼っている 玄関からリビング廊下、居室、トイレなど段差がなく、車イスでも十分に移動できるスペースを確保している 夜間トイレを使用しやすいように一部のトイレの照明を点けた状態にしている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	2019年10月9日	評価結果市町村受理日	2019年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti=on_kouhou_detai_i_022_kani=true&amp;i_gyosyoQ=2192200034-00&amp;Servi.ceQ=320&amp;Type=search">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti=on_kouhou_detai_i_022_kani=true&amp;i_gyosyoQ=2192200034-00&amp;Servi.ceQ=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	2019年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議の中で、施設理念と職員の心得の唱和を行っている その理念の下、チーム目標を立て、ゆにっと内で毎日唱和し日常のケアに繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉推進委員のメンバーに加入し、地域の方と意見交換をしたり勉強会を行っている 地元の小学校の運動会にも参観させていただいた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターとして、小学生を対象に、養成講座を実施したり、認知症初期支援集中チームのメンバーとして専門知識を活かした活動をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告や職員の異動、アクシデント報告を行い、出席者のご意見をいただきサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、困難事例の相談や地域包括支援センターからの相談を受けるなど協力関係が築けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせず、身体拘束をしないケアを意識して常日頃より取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者も職員も施設内外の研修に参加し、虐待の防止に努めている		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間予定してある勉強会にて日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、利用者・ご家族の様の背景を踏まえた上で、十分な説明を行うよう心掛けご理解をえるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には相談窓口についての説明とポスターの掲示 日頃より意見の言いやすい環境づくりに努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とのコミュニケーションを図り、全体会議や個人面談等でいけんを言いやすい環境作りに努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々に合わせたシフト調整や労働条件に応じた諸手当の制度等意欲的に働ける職場環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間予定に施設内外の研修を立て実施している 日常の業務の中でケアチェックを行ったり、個人面談等で各自の力量を確認している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接している事業所と合同で勉強会を行ったり、ケアサービス連絡会に参加し、交流や学ぶ機会を作っている		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に必ず本人面談を行い、思いの把握に努め、入所後少しでも安心して生活していただくための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後に必ずご家族とも面談を行い、不安な事、ご要望等をじっくり聞く時間を作り、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の症状によっては、まずは正しい診断をしていただく為に専門医への受診をすすめたり、在宅ケアでのサービス利用についてもお話をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者に対し、感謝の気持ちや敬意を払えるよう「ありがとう」を言葉にして伝えることを意識している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所したからといってご家族との絆が絶えないよう、来苑していただきやすい雰囲気づくりやご利用者の思いを代弁して伝えたりしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時より馴染みの人や場所の把握に努め、ご家族の協力もいただきながら、関係が途切れないよう支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者同士の関係性を見極めながら、孤立させないように関わりが持てる場面作りに努めている		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した際、特に長期入院による退所の場合は、その後の経過を知ると共にご家族の相談にも柔軟に対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でお一人おひとりの思いや意向の把握に努め、職員間で情報共有を図るよう努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からこれまでの暮らしについてお聞きし、そのことと現状を結びながら、その方をとらえていくことに反映している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の「できること・できないことシート」を用いて客観的にアセスメントすると共に、日頃の状態を観察し情報共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月全員のモニタリングを実施し、ケア内容を振り返っている。また課題があった時はその都度意見交換したり、ご家族に相談し計画書にも反映させている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は計画書に基づいたケア提供を實踐した内容を記載し、職員間で情報共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人・ご家族の状況や施設側の状況に応じて柔軟に対応するよう心掛け実践している		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が地域との関係づくりをすることで、ご利用者が安全で楽しめる暮らしを提供できる機会を作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や身体状況の変化時は本人、ご家族の意向を確認し、安心して適切な医療が受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はご利用者の体調について把握し、気づきを看護職に伝えて、早期に医療的対応が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より医療機関との良好な関係性を築き、情報交換や相談しやすい状況下で円滑な入・退院に繋がるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、終末期に向けたケア方針を説明すると共に、ご本人・ご家族の意向を確認した上で、かかりつけ医とも密に連携しながらチームで支援できる体制をつくっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や救命講習会の実施をし、実践力を身に付けられるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時・水害時の訓練をそれぞれ年2回、いろんな想定の下実施している 地域との協力体制を築けるよう機会あるたびにお話している		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設のご利用者様として、又、人生の先輩として失礼のないよう言葉遣いや態度に配慮した対応を心掛けている プライバシー確保の為、トイレや居室のドアは閉める等基本的な事、排泄介助時の声の大きさ等にも配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が職員に対して思っていることを伝えられるよう、普段より信頼関係作りに努めている 自己選択・決定をする事が難しいご利用者には、選択肢を2~3に絞り、職員のアドバイスを添えることで、意見を引き出し易くなるよう工夫している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	イベント・行事への参加や入浴は、ご利用者の心身の健康状態の把握を確認の上、無理のない範囲でお誘いしている 余暇活動はご利用者の身体に負担が無いが見極めつつ、意思を尊重した自由な時間を過ごしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪はご利用者の状態を見て適時行っている 地域の美容院や馴染の理容院に依頼している 衣替えは季節に応じて行いご利用者の思いを汲み取りながら一緒に選択している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の希望・要望を聞いての献立や季節の旬の物や行事食を提供している 彩りや盛り付けにも配慮し、目でも楽しめるよう心掛けている 屋食は共に会話をしながら楽しい雰囲気でも過ごし、できる方にはコップの下膳等をしていただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の摂取状況は、その都度記録し、栄養状態についても、毎月の体重測定等で把握し職員で情報共有している 使い易い食器の選択や自助具の使用、トロミ剤、ミキサー食等、食事形態を工夫し状態に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・臥床時、毎食後に必ず口腔ケアを実施している 口腔ケア用品も個々に合わせ使用し、ご利用者に応じた支援方法で口腔内の残渣物等の確認を行っている また必要に応じて歯科医とも連携し、口腔内の衛生保持に努めている		



グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の介護記録より、個々の排泄リズムを把握し、早めの声かけやトイレ誘導を行っている 失禁や汚染時は自尊心に配慮した声掛けを心掛け、ご利用者を傷つける事が無いよう努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給を心掛けたり、リハビリ体操への参加の促しを行い、運動する機会を持っている ホットパックや腹部マッサージ等で排便を促したり、消化の良い物、牛乳、食物繊維を多く含む食材を使用し、便秘対策に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の気分やペースに合わせた声かけや、ゆったりとした入浴時間を提供できるよう支援している また個々に応じた入浴方法を検討し、安心・安全な入浴となるよう努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は可能な範囲で活動的に過ごしたり、午睡したりと、個々に合わせた支援を行っている 丁寧な声かけや、安心できる雰囲気をつくる等、ご利用者が落ち着いて休息できる環境づくりに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更時は申し送り等で職員に周知徹底し、薬情は各ご利用者の記録にファイリングし、随時確認できるようにしている 服薬時には職員2名でダブルチェックを行い、またご本人にも確認頂き誤薬防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎の作品作りや、折り紙、編み物、塗り絵、カラオケなど、個々の趣味を楽しんでいただいている 新聞折、洗濯たみなど、できる力を活かすことで役割意識を持ち、活気のある暮らしができるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の面会時に気分転換を兼ねた外出を依頼し、散歩や外食等をしていただいている 季節感を肌で感じて頂けるようお花見等の外出支援や、日常的にはごみ出し、花や野菜への水やり、近隣の散歩等で気分転換を図っている		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながら、ご本人の想いに添えるようでき得る限りの支援をしている またその想いに変化が生じれば、管理者、職員共に情報を共有し柔軟な対応ができるよう努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、耳が遠く聞きづらいご利用者に代わって電話の対応をしたり、状況に応じて支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品作りをし、リビングへの展示や、外出時や季節のイベントでのご利用者の写真を飾り、皆さんで思い出を共有できる場になるよう、雰囲気作りに努めている リビングや居室内の温度調節や光彩にも配慮し、ゆったりと過ごせるよう取り組んでいる		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下等、自由に行動できるよう安全な環境整備に努め、車いすでも通れるスペースを確保し、気の合うご利用者同士で会話を楽しんだり、またリビングのソファや、和室など、それぞれに思い思いの場所で過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自宅で使用されていた馴染みの物を持って来て頂いたり、ご家族との写真やご自分の作品を飾ったり、また施設で行った誕生日会の色紙を置くなど、居心地の良さや安心感のある居室作りに努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月のモニタリングや日常生活動作の評価票を活用し、個々の残存機能を把握した上でご利用者に応じた自立した生活が安全に送れるよう環境作りに努めている		